

都立野津田高等学校 令和3年度 教科(情報) 科目(社会と情報) 年間授業計画

教科: (情報) 単位数: (2) 単位

対象学年組: 第3学年1・2・3・5・6組

使用教科書: 日本文教出版 新・見てわかる社会と情報

使用教材: 東京書籍 情報モラルテーマ21

	指導内容	科目(社会と情報)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
4 月	1 ICT技術の向上 (第1章・第2章)	(1) コンピュータで情報を取り扱うことの意味を理解させる。 (2) 情報を伝えることの責任感や基本的な姿勢について理解させる。	以下の4観点をもとに 観点別に評価を行い、 総合的な評価を算出する。 【関心・意欲・態度】 ○ 出席状況 ○ 実習の姿勢 ○ 課題の提出状況 ○ プレゼン発表状況 ○ 授業プリントの提出 ○ プリントの保管状況 【思考・判断・表現】 ○ 実習成果物 ○ 実習の状況確認 ○ 定期考査(20%) 【技能】 ○ タイピング能力 (向上度・正確性) ○ 基本的なICT技術 ○ プレゼンテーション能力 【知識・理解】 ○ 授業プリントの提出 ○ 課題の提出状況 ○ 定期考査	2	
		(3) コンピュータの基本操作、タイピングを通じて自己のICT技術を再確認させる。 (4) ワープロソフトの基本的な使い方を身に付けさせる。 (5) PC上のMicrosoft Teamsの基本的な使い方を身に付けさせる。		4	
5 月	2 ビジネス文書と著作権 (第2章) 3 情報機器と情報通信の基本的な知識(第2章・第5章)	(1) ハードウェア・ソフトウェアや情報機器の役割について理解させる。 (2) パスワードに関する基礎知識や、様々な認証システムについて理解させる。 (3) デジタル情報の仕組みやマルチメディア、データ量の仕組みについて理解させる。		4	
		(4) ビジネス文書の作り方や構造を理解させ、与えられた情報を文書にまとめる技術を習得させる。 (5) 著作権に関する諸知識を身に付けさせ、著作権を意識した作品を作る重要性を理解させる。 (6) Officeソフトで作成したデータをクラウド上で共有し、共同作業する力を身に付けさせる。		4	
6 月	4 情報の整理とデータ分析 (第3章)	(1) CMやカタログを用いて情報の比較と分析を、正しい情報を見抜く力をつけさせる。 (2) グラフの種類や分析の方法について理解させ、正しい結論を導く力をつけさせる。 (3) 問題解決・分析やPDCAサイクルに関する基本的な知識を理解させる。		4	
		(4) 表計算ソフトの基本的な使い方とグラフの作り方を習得させる。 (5) 表を用いて情報を比較し、比較した結果をレポートにして作成処理すつ力をつけさせる。		4	
7 月					4
8 月					
9 月	5 情報をわかりやすく伝える (第3章)	(1) プレゼンテーションの基礎知識について理解させる。 (2) 図解について理解させる。 (3) 目的や伝わる相手に応じた情報伝達の在り方を理解させる。		4	
		(4) 基本的なプレゼンテーションソフトの使い方を理解させる。 (5) プレゼンソフトを用いた図解の使い方を理解させる。 (6) 伝わる相手を意識したプレゼン資料の作り方を理解させる。		4	
10 月	6 問題解決とプレゼンテーション(第3章)	(1) テーマに沿ってプレゼン発表を行い、相互評価の活動をさせる。		4	
		(2) 問題解決法の一つであるKJ法について学び、プレゼン資料の質を深める技術を習得させる。	4		
11 月	7 情報分析の手法と実際 (第3章)	(1) 問題解決のテーマ設定や調査項目の作成、調査の流れの基本的な仕組みを理解させる。 (2) Microsoft Formsを用いたオンライン調査の仕組みについて理解させる。	4		
		(3) Microsoft Formsの使い方を理解させる。 (4) テーマ設定、質問項目の作成、調査の実施、集計と分析まで行わせ、調査法を習得させる。	4		
12 月				2	
1 月	8 情報システムと情報社会 (第5章)	(1) 情報システムの種類やAI・Society5.0について理解させる。 (2) QRコードの仕組みや利用法について理解させる。	4		
		(3) 身近なIoT技術についてグループ研究をさせ、オンライン上でレポートを作る力をつけさせる。 (4) QRコードを作成させ、QRコードを含んだコンテンツを作成させる。 (5) QRコードを入れたことによって、省略できる情報を意識させ、情報を吟味する力をつけさせる。	4		
2 月	9 情報社会の課題 (第4章) 10 望ましい情報社会とは (第5章)	(1) 最近の情報セキュリティ事故について調べさせ、その特徴を理解させる。 (2) ユニバーサルデザインやバリアフリーを意識した情報デザインを理解させる。	4		
		(3) 身近な情報セキュリティ事故についてグループ研究させ、オンライン上でレポートを作る力をつけさせる。 (4) 日常生活で大事と考えるマークについて考案させ、ソフトウェアで作成させる。	4		
3 月	10 望ましい情報社会とは (第5章)			2	

都立野津田高等学校 令和3年度 教科(情報) 科目(情報の科学) 年間授業計画
 教科: (情報) 単位数: (2) 単位
 対象学年組: 第3学年必修選択(1~3組)
 使用教科書: 第一学習社 高等学校 情報の科学
 使用教材: なし(適宜授業プリントを配布)

	指導内容	科目(情報の科学)の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数	
4月	1 表計算処理とモデル化 (第4章)	(1) 表計算ソフトの基本的な使い方を習得させる。 (2) 表計算ソフトを用いた数値処理やセル参照技術について理解させる。	以下の4観点をもとに観点別に評価を行い、総合的な評価を算出する。 【関心・意欲・態度】 ○ 出席状況 ○ 実習の姿勢 ○ ワークシートの提出・管理状況の確認 【思考・判断・表現】 ○ 実習成果物 ○ 実習の状況確認 ○ 実技試験の状況 【技能】 ○ 表計算処理能力 ○ プログラム処理能力 【知識・理解】 ○ 授業プリントの提出 ○ 課題の提出状況 ○ 実技試験の状況	3	
				3	
5月		(3) 端数処理の方法を学ぶ。 (4) 条件分岐処理・入れ子の構造を持つ条件分岐処理について理解させる。 (5) 並び替え処理や順位付け、集計処理について学ばせる。		4	
				4	
6月		(6) VLOOKUP関数について理解させる。 (7) 気温変化や返済金額のシミュレーションをさせ、未来予測の手法を身につけさせる。 (8) 情報処理検定 準2級または3級の各自学習をさせる(受験は任意) (9) 実技試験 または 検定試験の実施		4	
				4	
7月		(5) クラウド技術を用いた表計算処理の効率化について理解させる。 (6) グラフの種類や作り方を理解させる。		6	
8月					
9月		2 データベース (第5章)		(1) 図書館の本の管理の仕方とデータベースの基本を身につけさせる。 (2) 関係データベースの基礎知識や正規化について理解させる。 (1) Accessを用いて、図書館の本のデータベース登録する実習を行う。 (2) データベースの作成・更新・帳票出力の技術を身につけさせる。 (3) 表計算を用いた差し込み印刷について習得させる。	4
				6	
10月	3 情報処理の自動化 (第5章)	(1) プログラミングツール Scratch を用いて、簡単なプログラムを組む技術を習得させる。 (2) 逐次実行・条件分岐・繰り返し処理について自宅学習課題を思い出させながら理解させる。 (3) 迷路を解くプログラムを作成させ、相互評価をさせる。	6		
			6		
11月		(4) 並び替えのアルゴリズムについて理解させ、プログラムを組む技術を習得させる。 (5) 配列の構造について理解させ、プログラムを組む技術を習得させる。	4		
			4		
12月	(6) Scratchを用いたプログラム・ゲームの企画をし、プログラムを作り、発表活動を行わせる。	2			
1月	4 デジタル情報 (第1章)	(1) 文字コードについて理解させ、デジタル上の文字の構造について理解させる。 (2) デジタル上の画像の仕組みについて理解させる。 (3) デジタル上の音声の仕組みについて理解させる。 (4) 著作権について理解させ、著作権に配慮したデジタルコンテンツの作成について理解させる。	4		
2月			4		
3月		(1) 画像の画質や解像度、しきい値を変える実習を行い、デジタル画像の取り扱い方を学ばせる。 (2) 音声データの編集、結合の実習を行い、デジタル音声の取り扱い方を学ばせる。 (3) アニメーションの実習を行い、デジタル動画の作成について理解させる。 (4) 著作権に配慮したデジタル作品の制作活動をさせる。	2		